（1）主題名　公徳心〔中学校　４－（３)〕　　関連項目〔２－（１)〕
（2）ねらい　よりよい集団や社会を作り上げることをめざし，社会連帯の自覚と公徳心を持って行動しようとする気持ちを育てる。
（3）資料名　「パブリック？プライベート？」（出典：３　自分をのばす　暁教育図書）

資料の概要
電車内の床に座り込み，化粧をしたり，ジュースを飲んだり，携帯電話を使用したりと傍若無人な振る舞いをする高校生のグループ。それを目にした主人公の女子生徒は，同じ車内で偶然ＡＬＴのモーリス先生と居合わせた。そこで，モーリス先生から祖国カナダでは，パブリックとプライベートをはっきり区別していることを聞く。普段見慣れた光景であったが，この言葉に女子生徒の心は揺れる。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　公衆の場での携帯電話の使用について考える。	○電車やバスなどに乗っている時，携帯電話の使用について，どのようなアナウンスが流れるか。 ・携帯電話の電源をきってください ・マナーモードにしてください ○電源を切るよう放送されるのはなぜだろう ・周りの人が迷惑するから	○発表の後に，実際の放送を録音したものや禁止のマークを見聞きさせ，資料への関心を高める。 ○マナーの問題だけでなく，命に関わる（心臓ペースメーカー等）ことを押さえる。
展開	2　資料を読んで，パブリック（公共の場）について考える。 3　「恥ずかしさ」とは何かについて考える。 4　社会性について考える。	○公共の場所で迷惑や不愉快に感じたことがありますか。 ・平気でゴミを捨てる行為 ・騒がしくて迷惑をかける行為 ○モーリス先生は，なぜ，高校生たちの行動を「恥ずかしいこと」と言ったのだろう。 ・周りの人に迷惑をかけていることに気付いていないから ・私的な場ですることと公的な場でして良いことの区別がついていないから ◎筆者が「後でかけ直す」と言ったのはなぜだろう。 ・周りの迷惑になってはいけないと思ったから ・モーリス先生の話を思い出したから	○自分勝手な態度や行為が周囲の人たちに迷惑をかけたり，不快感を与えている場面を想起させる。 ○なぜ，不愉快なのか，体験を通して考えさせる。 ○同じ行為であっても，私的なものと公的なものとを区別することができるかどうかは何によって決まるのか考えさせる。 ○人を大切にすることと社会性を身に付けることとはつながっていることに気付かせる。
終末	5　よりよい社会の実現について考える。	○それぞれの登場人物の気持ちを振り返り，自分が思ったことや意見を「心のノート」にまとめ，記入する。	○おばあさんの態度から改めて筆者が社会性を意識したことに気付かせ，その後の行動へと変化した心の動きを感じとらせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

公衆の場でのルールやマナーについて，最近特に乱れてきている状況がある。生徒も学校という集団の一員だけでなく，地域という広い意味での社会にも所属し，活動することも多い。最近では，携帯電話の所有が急増し，さらには低年齢化しつつある。そして，不用意な使用が金銭問題や犯罪に関わる事例としても発生してきている。

本資料でも公共の場と私的な場との区別がつかず，他人に対して不愉快さを感じさせたり，迷惑行為になっていることにすら気付けていない高校生が登場する。「恥ずかしさ」とは何であるかを理解し，人を大切にすることと社会性を身に付けることとの関わりに気付かせ，さらに，自分自身の行動を客観的に見つめていける力を育てていける題材であると思われる。

２　指導過程の工夫

自分さえ楽しければそれでよい，あるいは他人には迷惑をかけていないからよいとか，自分だけではない，周りにも同じような人はいるという意識の中で，私的なことと公的なこととの区別がつかない場面が多く見られる。

本資料では，特に携帯電話の使用について，どう考えるかを中心に展開した。確かに，携帯電話は便利であるし，緊急時に連絡をとったりすることもあるので，不必要な物と断定はできない。しかしながら，その使用が時として他人の命や安全にも関わることにつながることもあり，ルールやマナーとしてだけではないことも改めて考えさせ，社会性について理解するための題材として工夫した。

３　発問の工夫

最近では，公共の乗り物や公共の場所で携帯電話の使用についてのアナウンスをよく聞くようになった。生徒も，日常的に聞くそれらのことばを無意識ながら記憶にとどめている。なぜ，それらのアナウンスがされるのかという初発の質問を契機に，公徳心について考えていった。

また，「恥ずかしい」という言葉も人によっては随分と捉え方が違っている。同じ行為であっても，公的な場ですべきではないことも多い。それらも含め，自己の行動を振り返らせ，客観的に見つめていけるよう工夫した。

４　生徒の反応

生徒の実態として携帯電話を持っている，あるいは持ちたいと思っている人数は多い。マナーは守らなければいけないという感想の生徒も多かったが，実際自分を振り返ったとき，資料で登場するマナーに欠けた高校生の行動と似た経験（バス通学中に騒がしくしたなど）があると答えた生徒も見られた。

５　授業後のフォローアップ

先にも述べたように，地域社会の中でも生徒は育てられている。生徒たちの自発的行動を見守りながら，ルールやマナーについても，これからも学校のみならず地域や保護者とも連携し，大切にする心を育てていけるよう指導を継続していきたい。

（清和中学校）